

2019年度 連結業績概要

(2020年3月31日に終了した1年間)

2020年5月13日

ソニー株式会社

2019年度 連結業績

| | FY18 | FY19 | 前年度比 | (億円) |
|-----------------------------------|---------|----------------|---------------------|-----------------|
| 売上高及び営業収入 | 86,657 | 82,599 | △4,058 億円 (△5%) | |
| 営業利益 | 8,942 | 8,455 | △488 億円 (△5%) | |
| 税引前利益 | 10,116 | 7,995 | △2,122 億円 (△21%) | |
| 当社株主に帰属する当期純利益 | 9,163 | 5,822 | △3,341 億円 (△36%) | |
| 普通株式1株当たり当社株主に 帰属する当期純利益(希薄化後) | 707.74円 | 461.23円 | △246.51 円 | |
| 金融分野を除く連結ベース* | | | | |
| 営業キャッシュ・フロー | 7,534 | 7,629 | +94 億円 | |
| 投資キャッシュ・フロー | △5,204 | △3,631 | +1,573 億円 | |
| フリー・キャッシュ・フロー 合計(営業CF+投資CF) | 2,331 | 3,998 | +1,667 億円 | |
| | | | | 1株当たり配当金 |
| 平均為替レート | | | 中間 | 20円 |
| 1米ドル | 110.9円 | 108.7円 | 期末 | 25円 |
| 1ユーロ | 128.5円 | 120.8円 | 年間 | 45円 |

*「2019年度 決算短信」P.13 金融分野を除くソニー連結 要約キャッシュ・フロー計算書 参照(次頁以降も同じ)。

金融分野を除く連結ベースキャッシュ・フローは米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様にとって有益な情報を提供すると考えています。

2019年度 4Q 連結業績

| | FY18 4Q | FY19 4Q | 前年同期比 |
|------------------------------------|---------|---------|---------------------|
| 売上高及び営業収入 | 21,275 | 17,487 | △3,788 億円 (△18%) |
| 営業利益 | 827 | 354 | △473 億円 (△57%) |
| 税引前利益 | 1,126 | △40 | △1,166 億円 (-%) |
| 当社株主に帰属する四半期純利益 | 879 | 126 | △752 億円 (△86%) |
| 普通株式1株当たり当社株主に 帰属する四半期純利益(希薄化後) | 68.23円 | 10.10円 | △58.13 円 |
| 平均為替レート | | | |
| 1米ドル | 110.3円 | 109.0円 | |
| 1ユーロ | 125.3円 | 120.2円 | |

2

2019年度 連結業績 前年度比 主な変動要因

| | 前年度比 | 主な変動要因 (+)増加要因、(-)減少要因 |
|--------------------|--|--|
| 売上高及び営業収入 | △4,058 億円 △5% | (-)EP&S分野及びG&NS分野の大幅減収 (+)I&SS分野の大幅増収 前年度の為替レートを適用した場合*、3%減収 |
| 営業利益 | △488 億円 △5% | (-)FY18においてEMI連結子会社化にともなう再評価益を計上した 音楽分野の大幅減益、G&NS分野の大幅減益 (+)I&SS分野及びその他分野の大幅増益 |
| その他の収益(費用) (純額) | 1,634 億円 悪化 (1,174億円の収益 →460億円の費用) | (-)FY18におけるSpotify社株式売却益及び評価益(純額 +1,178億円) |
| 法人税等 | +1,772 億円 実効税率 4.5%→22.2% | (-)FY18.3Qにおいて、米国の連結納税グループにおける相当部分の繰 延税金資産に対する評価性引当金1,542億円の取り崩し (-)FY18.3Qにおいて、EMI持分に関する再評価益1,169億円に対する税 金費用の計上していない |

* 為替変動による売上高及び営業損益への影響についてはP.25を参照(次頁以降も同じ)。

3

調整後営業利益

| | 営業利益 | 調整後営業利益 | 調整後営業利益は以下の項目*を含まない |
|------|----------|------------------------|---|
| FY18 | 8,942 億円 | 8,093 億円 | <ul style="list-style-type: none"> EMI連結子会社化にともなう再評価益(音楽分野 +1,169億円) 長期性資産の減損損失(EP&S分野 △192億円) 長期性資産及び営業権の減損損失(その他分野 △129億円) |
| FY19 | 8,455 億円 | 8,140 億円 | <ul style="list-style-type: none"> SREホールディングス(株)株式の上場及び一部売出しにともなう再評価益及び売却益(その他分野 +173億円) 特定のライセンス契約締結にともなう特許料収入(全社(共通)及びセグメント間取引消去 +79億円) (株)NSFエンゲージメント株式の一部譲渡にともなう売却益及び再評価益(全社(共通)及びセグメント間取引消去 +63億円) |
| 前年度比 | △488 億円 | +46 億円 (+1%) | |

* 該当四半期における「決算短信」、「説明会配布資料」、及び「四半期報告書」で金額を開示した項目

調整後営業利益は米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様に有益な情報を提供すると考えています。

4

調整後営業利益 (4Q)

| | 営業利益 | 調整後営業利益 | 調整後営業利益は以下の項目*を含まない |
|---------|---------|--------------------------|---|
| FY18 4Q | 827 億円 | 956 億円 | <ul style="list-style-type: none"> 長期性資産及び営業権の減損損失(その他分野 △129億円) |
| FY19 4Q | 354 億円 | 354 億円 | |
| 前年同期比 | △473 億円 | △601 億円 (△63%) | |

* 該当四半期における「決算短信」、「説明会配布資料」、及び「四半期報告書」で金額を開示した項目

調整後営業利益は米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様に有益な情報を提供すると考えています。

5

調整後税引前利益

| | 税引前利益 | 調整後税引前利益 | 調整後税引前利益は以下の項目*を含まない |
|------|-----------|------------------|--|
| FY18 | 10,116 億円 | 8,090 億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Spotify社株式売却益及び評価益(純額 +1,178億円) ■ EMI連結子会社化にともなう再評価益(音楽分野 +1,169億円) ■ 長期性資産の減損損失(EP&S分野 △192億円) ■ 長期性資産及び営業権の減損損失(その他分野 △129億円) |
| FY19 | 7,995 億円 | 7,743 億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ SREホールディングス(株)株式の上場及び一部売出しにともなう再評価益及び売却益(その他分野 +173億円) ■ 特定のライセンス契約締結にともなう特許料収入(全社(共通)及びセグメント間取引消去 +79億円) ■ (株)NSFエンゲージメント株式の一部譲渡にともなう売却益及び再評価益(全社(共通)及びセグメント間取引消去 +63億円) ■ ソニーの国内年金制度変更にかかる損失(△64億円) |
| 前年度比 | △2,122 億円 | △347 億円 (△4%) | |

* 該当四半期における「決算短信」、「説明会配布資料」、及び「四半期報告書」で金額を開示した項目

調整後税引前利益は米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様にとって有益な情報を提供すると考えています。

6

調整後税引前利益 (4Q)

| | 税引前利益 | 調整後税引前利益 | 調整後税引前利益は以下の項目*を含まない |
|---------|-----------|--------------------|---|
| FY18 4Q | 1,126 億円 | 1,255 億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 長期性資産及び営業権の減損損失(その他分野 △129億円) |
| FY19 4Q | △40 億円 | △40 億円 | |
| 前年同期比 | △1,166 億円 | △1,295 億円 (- %) | |

* 該当四半期における「決算短信」、「説明会配布資料」、及び「四半期報告書」で金額を開示した項目。

調整後税引前利益は米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様にとって有益な情報を提供すると考えています。

7

調整後当社株主に帰属する当期純利益

| | 当社株主に帰属する当期純利益 | 調整後当社株主に帰属する当期純利益 | 調整後当社株主に帰属する当期純利益は以下の項目*1を含まない |
|------|----------------|-------------------|---|
| FY18 | 9,163 億円 | 5,785 億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Spotify社株式売却益及び評価益(純額 +1,178億円) ■ 長期性資産の減損損失(EP&S分野 △192億円) ■ 長期性資産及び営業権の減損損失(その他分野 △129億円) ■ 上記3項目に関わる税額調整(△190億円) ■ EMI連結子会社化にともなう再評価益(音楽分野 +1,169億円) ■ 繰延税金資産に対する評価性引当金の一部取崩し(+1,542億円) |
| FY19 | 5,822 億円 | 5,503 億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ SREホールディングス(株)株式の上場及び一部売出しにともなう再評価益及び売却益(その他分野 +173億円) ■ 特定のライセンス契約締結にともなう特許料収入(全社(共通)及びセグメント間取引消去 +79億円) ■ (株)NSFエンゲージメント株式の一部譲渡にともなう売却益及び再評価益(全社(共通)及びセグメント間取引消去 +63億円) ■ ソニーの国内年金制度変更にかかる損失(△64億円) ■ 上記4項目に関わる税額調整(△60億円) ■ オリンパス(株)株式売却にともなう法人税の減額*2(+127億円) |
| 前年度比 | △3,341 億円 | △282 億円 (△5%) | |

*1 該当四半期における「決算短信」、「説明会配布資料」、及び「四半期報告書」で金額を開示した項目
*2 株式売却にともなう発生税額が未実現評価益に対して計上していた繰延税金負債を下回ったことによる法人税額の減額

調整後当社株主に帰属する当期純利益は米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様にとって有益な情報を提供すると考えています。

8

調整後当社株主に帰属する当期純利益

FY18

(億円)

| | 税引前利益 | 税金費用 | 実効税率 | 当社株主に帰属する四半期純利益 |
|----------------------------|---------------|--------------|--------------|-----------------|
| 実績値 | 10,116 | 451 | 4.5% | 9,163 |
| 実効税率に影響を及ぼす要因の調整 | | | | |
| EMIの連結子会社化にともなう再評価益 *1,2 | △1,169 | — | — | △1,169 |
| 繰延税金資産に対する評価性引当金の一部取り崩し *1 | — | +1,542 | — | △1,542 |
| 小計 | 8,947 | 1,993 | 22.3% | 6,452 |
| その他の要因の調整 *2 | △857 | △190 | 22.3% | △667 |
| 調整後数値 | 8,090 | 1,802 | 22.3% | 5,785 |

FY19

| | 税引前利益 | 税金費用 | 実効税率 | 当社株主に帰属する四半期純利益 |
|-------------------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 実績値 | 7,995 | 1,772 | 22.2% | 5,822 |
| 実効税率に影響を及ぼす要因の調整 | | | | |
| オリンパス(株)株式売却にともなう法人税の減額 | — | +127 | — | △127 |
| 小計 | 7,995 | 1,899 | 23.8% | 5,695 |
| その他の要因の調整 *2 | △251 | △60 | 23.8% | △192 |
| 調整後数値 | 7,743 | 1,839 | 23.8% | 5,503 |

*1 該当四半期における「決算短信」、「説明会配布資料」、及び「四半期報告書」で金額を開示した項目

*2 調整の詳細は決算説明会資料P.8を参照。

調整後当社株主に帰属する当期純利益は米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様にとって有益な情報を提供すると考えています。

9

調整後当社株主に帰属する四半期純利益（4Q）

| | 調整前利益 | 調整後 当社株主に帰属 する四半期純利益 | 調整後当社株主に帰属する四半期純利益は以下の項目*を含まない |
|---------|---------|----------------------------|--|
| FY18.4Q | 879 億円 | 994億円 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 長期性資産及び営業権の減損損失(その他分野 △129億円) ■ 上記項目に関わる税額調整(+13億円) |
| FY19.4Q | 126 億円 | 126 億円 | |
| 前年同期比 | △752 億円 | △868 億円 (△87%) | |

* 該当四半期における「決算短信」、「説明会配布資料」、及び「四半期報告書」で金額を開示した項目

調整後当社株主に帰属する四半期純利益は米固会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様には有益な情報を提供すると考えています。

10

2019年度 セグメント別キャッシュ・フロー(CF)（金融分野を除く連結ベース）

| | | FY18 | FY19 |
|------------------------------------|---------|--------|--------|
| ゲーム& ネットワークサービス(G&NS) | 営業CF | 3,345 | 1,805 |
| | 投資CF | △370 | △732 |
| | フリーCF*1 | 2,975 | 1,073 |
| 音楽 | 営業CF | 588 | 1,211 |
| | 投資CF | △2,341 | △562 |
| | フリーCF | △1,753 | 649 |
| 映画 | 営業CF | 501 | 1,415 |
| | 投資CF | △188 | △405 |
| | フリーCF | 313 | 1,010 |
| エレクトロニクス・プロダクツ& ソリューション(EP&S) | 営業CF | 1,538 | 1,238 |
| | 投資CF | △643 | △1,089 |
| | フリーCF | 895 | 149 |
| イメージング& センシング・ソリューション(I&SS) | 営業CF | 1,961 | 3,089 |
| | 投資CF | △1,325 | △2,246 |
| | フリーCF | 637 | 843 |
| その他、全社(共通)及び セグメント間取引消去ならびに補正*2 | 営業CF | △398 | △1,129 |
| | 投資CF | △337 | 1,403 |
| | フリーCF | △735 | 274 |
| 金融分野を除く 連結ベース | 営業CF | 7,534 | 7,629 |
| | 投資CF | △5,204 | △3,631 |
| | フリーCF | 2,331 | 3,998 |

各分野の投資CFの算出にあたり、金融分野を除くフリー連結CF計算書(「2019年度 決算短信」P.13参照。以下、同様)における算出とは異なる以下の手法が取られています。

* 各分野が保有する定期預金の増減を投資CFから除外

* フアウンスリスにかかる支払額を投資CFに含める(金融分野を除くフリー連結CF計算書上は財務CF)

* オペレーティングリースにかかる支払額を営業CFから除外し、投資CFに含める(2019年度より調整)

これに伴い、各分野の営業CF及び投資CFには以下の調整金額が含まれています。

(2018年度 投資CF調整額)G&NS:△5億円、音楽:14億円、映画:△24億円、EP&S:△80億円、I&SS:△4億円、その他、全社(共通)及びセグメント間取引消去:△6億円、補正*:107億円

(2019年度 営業CF影響額)G&NS:115億円、音楽:99億円、映画:71億円、EP&S:264億円、I&SS:75億円、その他、全社(共通)及びセグメント間取引消去:△22億円、補正*:△601億円

(2019年度 投資CF影響額)G&NS:△118億円、音楽:△294億円、映画:△71億円、EP&S:△402億円、I&SS:△86億円、その他、全社(共通)及びセグメント間取引消去:△177億円、補正*:1,148億円

*1「フリーCF」は営業CFと投資CFの合計です。

*2「補正」は、上述の各分野の営業CF及び投資CFに含まれる調整金額の合計額を補正するものです。

営業CF、投資CF、フリーCFは米固会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様には有益な情報を提供すると考えています。

11

2019年度 セグメント別業績 [組替再表示]

(億円)

| | | FY18 | FY19 | 前年度比 | 為替影響 |
|------------------------------|----------|--------|--------|--------|------|
| ゲーム&ネットワークサービス(G&NS) | 売上高 | 23,109 | 19,776 | △3,333 | △654 |
| | 営業利益 | 3,111 | 2,384 | △727 | △122 |
| 音楽 | 売上高 | 8,075 | 8,499 | +424 | △112 |
| | 営業利益 | 2,325 | 1,423 | △901 | |
| 映画 | 売上高 | 9,869 | 10,119 | +250 | △221 |
| | 営業利益 | 546 | 682 | +136 | |
| エレクトロニクス・プロダクツ&ソリューション(EP&S) | 売上高 | 23,206 | 19,913 | △3,294 | △598 |
| | 営業利益 | 765 | 873 | +108 | △230 |
| イメージング&センシング・ソリューション(I&SS) | 売上高 | 8,793 | 10,706 | +1,912 | △222 |
| | 営業利益 | 1,439 | 2,356 | +917 | △182 |
| 金融 | 金融ビジネス収入 | 12,825 | 13,077 | +252 | |
| | 営業利益 | 1,615 | 1,296 | △319 | |
| その他 | 売上高 | 3,457 | 2,514 | △943 | |
| | 営業利益 | △111 | 163 | +274 | |
| 全社(共通)及びセグメント間取引消去 | 売上高 | △2,678 | △2,004 | +673 | |
| | 営業利益 | △747 | △722 | +25 | |
| 連結 | 売上高 | 86,657 | 82,599 | △4,058 | |
| | 営業利益 | 8,942 | 8,455 | △488 | |

・2019年度第1四半期に行った業績報告におけるビジネスセグメント区分の変更にもない、各分野の過年度の財務数値を当年度の表示に合わせて組替再表示している(次頁以降も同じ)
 ・2019年度第1四半期より、従来の半導体分野をイメージング&センシング・ソリューション(I&SS)分野に名称変更している(次頁以降も同じ)
 ・各分野の売上高はセグメント間取引消去前のものであり、また各分野の営業利益はセグメント間取引消去前のもので配賦不能費用は含まれない(次頁以降も同じ)。
 ・売上高/金融ビジネス収入: 営業収入を含む(次頁以降も同じ)。
 ・為替影響額の算出方法についてはP.31掲載の「注記」を参照(次頁以降も同じ)。

12

2019年度 新型コロナウイルス感染拡大の影響額への影響額の試算

(億円)

| | FY19 年間試算額 | 影響の概要 |
|------------------------------|---------------|---|
| ゲーム&ネットワークサービス(G&NS) | +28 | ゲームソフトウェアのダウンロード販売、ネットワークサービスの増収 |
| 音楽 | △10 | 楽曲使用機会(テレビ広告、レストラン・バーなど)減少 イベントの延期、中止等の影響 |
| 映画 | +15 | テレビ作品の納入遅れによる減収 映画作品のデジタル販売の好調、劇場公開延期によるマーケティング費用減少 |
| エレクトロニクス・プロダクツ&ソリューション(EP&S) | △351 | 中国・マレーシアの製造事業所の稼働停止による供給不足 世界各国のロックダウンによる需要減 |
| イメージング&センシング・ソリューション(I&SS) | △84 | 顧客の稼働停止などによる需要の減少 |
| 金融 | △280 | 市況悪化による、ソニー銀行の投資有価証券評価損益の悪化及び ソニー生命における責任準備金繰入額の増加など |
| 影響額合計 | △682 | |

上記の影響額は、P.32に記載の前提に基づく試算結果であり、新型コロナウイルス感染拡大(「感染拡大」)の影響をすべて網羅していない可能性や、または、感染拡大以外の影響を含んでいる可能性があります。
 上記の影響額は、米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様にとって有益な情報を提供すると考えています。

13

2019年度 4Q セグメント別業績 [組替再表示]

(億円)

| | | FY18 4Q | FY19 4Q | 前年同期比 | 為替影響 |
|----------------------------------|----------|---------|---------|--------|------|
| ゲーム& ネットワークサービス(G&NS) | 売上高 | 4,981 | 4,336 | △645 | △96 |
| | 営業利益 | 639 | 462 | △178 | △0 |
| 音楽 | 売上高 | 2,128 | 2,114 | △14 | △17 |
| | 営業利益 | 218 | 303 | +86 | |
| 映画 | 売上高 | 2,942 | 3,291 | +350 | △44 |
| | 営業利益 | 271 | 230 | △40 | |
| エレクトロニクス・プロダクツ& ソリューション(EP&S) | 売上高 | 4,834 | 3,634 | △1,200 | △69 |
| | 営業利益 | △389 | △595 | △206 | △18 |
| イメージング& センシング・ソリューション(I&SS) | 売上高 | 1,923 | 2,312 | +388 | △25 |
| | 営業利益 | 203 | 345 | +142 | △24 |
| 金融 | 金融ビジネス収入 | 4,303 | 1,864 | △2,439 | |
| | 営業利益 | 438 | 121 | △318 | |
| その他 | 売上高 | 723 | 407 | △317 | |
| | 営業利益 | △226 | △42 | +184 | |
| 全社(共通)及び セグメント間取引消去 | 売上高 | △559 | △471 | +89 | |
| | 営業利益 | △328 | △469 | △142 | |
| 連結 | 売上高 | 21,275 | 17,487 | △3,788 | |
| | 営業利益 | 827 | 354 | △473 | |

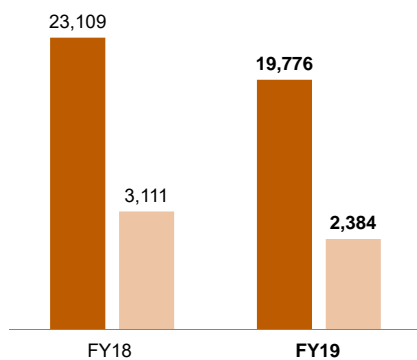
14

ゲーム & ネットワークサービス分野 (G&NS分野)

売上高及び営業利益

- 売上高
- 営業利益

(億円)



2019年度(前年度比)

- 売上高 3,333億円(14%)大幅減収 (為替影響: △654億円)
 - ・(-)プレイステーション®4ハードウェアの減収
 - ・(-)ゲームソフトウェアの減収
 - ・(-)為替の影響
 - ・(+)プレイステーション®プラス(PS Plus)の増収
- 営業利益 727億円大幅減益 (為替影響: △122億円)
 - ・(-)ゲームソフトウェアの減収
 - ・(-)為替の悪影響
 - ・(+)PS Plusの増収
 - ・(+)コスト削減

15

新型コロナウイルス感染拡大の影響（G&NS分野）

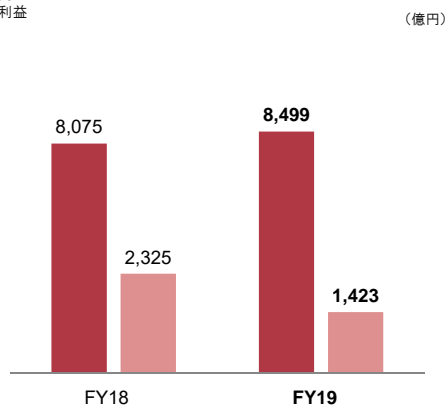
- プレイステーション®4の販売は堅調
- ネットワークサービスが伸長
- プレイステーション®5は当初の予定通り、年末商戦期に発売予定
- ゲームソフトウェア開発で顕在化している大きな問題は現時点ではなし

16

音楽分野

売上高及び営業利益

- 売上高
- 営業利益



2019年度（前年度比）

- 売上高 424億円(5%)増収（為替影響：△112億円）
 - ・(+)EMIの連結子会社化などによる音楽出版の増収
 - ・(+)ストリーミング配信の売上増加などによる音楽制作の増収
 - ・(-)モバイル向けゲームアプリ「Fate/Grand Order」の減収などによる映像メディア・プラットフォームの減収
- 営業利益 901億円大幅減益
 - ・(-)FY18にあったEMIの連結子会社化による再評価益(1,169億円)
 - ・(+)FY18にあったEMIの持分約60%の取得にともない発生した持分法投資損失116億円の計上
 - ・(+)増収の影響

17

新型コロナウイルス感染拡大の影響（音楽分野）

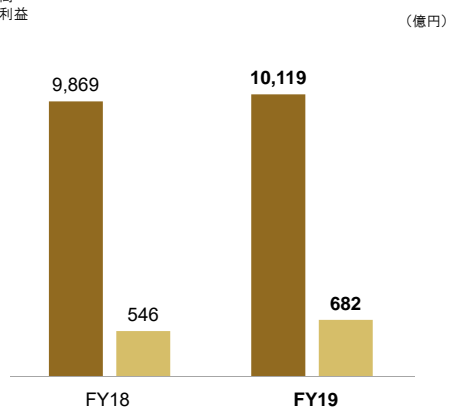
- レコーディング等への影響による新曲リリース延期
- 外出制限に伴うCD等の販売減少
- イベントの延期/中止によるライブ興行や物販、映像ビデオの販売の減少
- 広告縮小や映像コンテンツ制作遅れによる楽曲使用料の減少

18

映画分野

売上高及び営業利益

- 売上高
- 営業利益



2019年度（前年度比）

以下の要因分析は米ドルベース

- 売上高 250億円(3%)増収 米ドルベース: +446百万米ドル (+5%)
 - ・(+)全世界での劇場興行収入の増加
 - ・(+)テレビ番組作品のライセンス収入の増加
 - ・(-)前年度に実施したチャンネルポートフォリオ見直しの影響などによるメディアネットワークの減収
- 営業利益 136億円大幅増益
 - ・(+)前述のチャンネルポートフォリオ見直しの効果
 - ・(+)映画製作におけるカタログ作品の収益性の改善
 - ・(-)テレビ番組制作における番組企画費の増加及び新規番組の増加にともなう費用の増加
 - ・(-)メディアネットワークにおけるチャンネルポートフォリオ見直し費用の増加 (FY18△128億円、FY19△170億円)

19

新型コロナウイルス感染拡大の影響（映画分野）

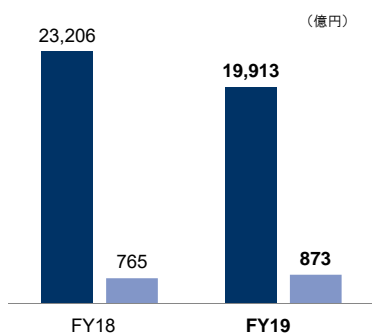
- 映画館の閉鎖や製作遅延による作品公開の延期
 - ・ 劇場興行収入をはじめとする収益の減少
- 映画作品のデジタル販売は好調
- テレビ番組制作への影響による納入の遅延
- 世界的な広告活動縮小による、メディアネットワークの広告収入の減少

20

エレクトロニクス・プロダクツ&ソリューション分野（EP&S分野）

売上高及び営業利益

■ 売上高
■ 営業利益



2019年度（前年度比）

- 売上高 3,294億円(14%)大幅減収（為替影響: △598億円）
 - ・ (-)スマートフォン・テレビの販売台数の減少
 - ・ (-)為替の影響
- 営業利益 108億円増益（為替影響: △230億円）
 - ・ (+)モバイル・コミュニケーションにおけるオペレーション費用の削減
 - ・ (+)モバイル・コミュニケーションにおける長期性資産の減損損失の減少
 - ・ (-)減収の影響
 - ・ (-)為替の悪影響

内、
モバイル・コミュニケーション*

| | | |
|-------------|-------|-------|
| 外部顧客に対する売上高 | 4,873 | 3,621 |
| 営業利益 | △971 | △211 |

* モバイル・コミュニケーションは、スマートフォン事業と固定通信事業を含む。

21

新型コロナウイルス感染拡大の影響（EP&S分野）

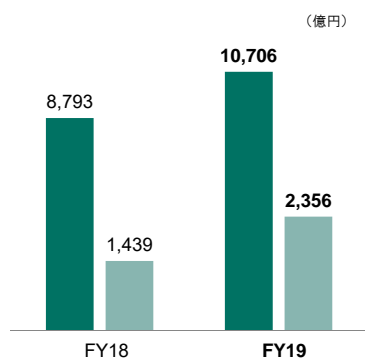
- 製造事業所への影響による供給不足
- 部品供給不足による一部製品の生産遅延
- 世界的な販売店舗の閉鎖・休業による販売減少

22

イメージング&センシング・ソリューション分野（I&SS分野）

売上高及び営業利益

- 売上高
- 営業利益



2019年度（前年度比）

- 売上高 1,912億円(22%)大幅増収（為替影響:△222億円）
 - ・(+)モバイル機器向けイメージセンサーの大幅な増収
 - ・(+)製品ミックスの改善
 - ・(+)販売数量の増加
 - ・(-)為替の影響
- 営業利益 917億円大幅増益（為替影響:△182億円）
 - ・(+)モバイル機器向けイメージセンサーの増収
 - ・(-)減価償却費及び研究開発費の増加
 - ・(-)為替の悪影響

| | | |
|-----------------|-------|-------|
| イメージセンサー売上高 | 7,114 | 9,302 |
| I&SS分野 固定資産の増加額 | 1,463 | 2,768 |
| 内、イメージセンサー | 1,289 | 2,657 |

23

新型コロナウイルス感染拡大の影響（I&SS分野）

- イメージセンサー製造事業所は通常通り操業
- 顧客のサプライチェーンは回復基調
- スマートフォン市場の減速を注視

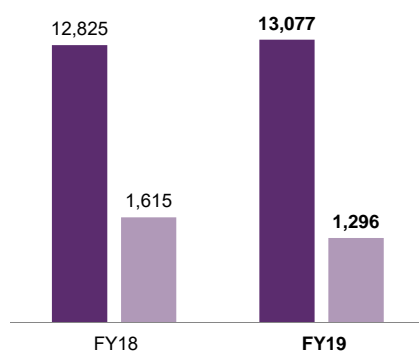
24

金融分野

金融ビジネス収入及び営業利益

- 金融ビジネス収入
- 営業利益

(億円)



2019年度（前年度比）

- 金融ビジネス収入 252億円(2%)増収
 - ・(+)ソニー生命の増収(+286億円、収入:1兆1,717億円)
 - ・(+)一時払保険を主とする保険料収入の増加
 - ・(-)特別勘定における運用損益の悪化
- 営業利益 319億円減益
 - ・(-)ソニー生命の減益(△221億円、利益:1,235億円)
 - ・(-)株式相場下落や金利の低下などともなう、責任準備金繰入額の増加及び資産運用損益の悪化
 - ・(-)ソニー銀行における有価証券評価損益の悪化

25

新型コロナウイルス感染拡大の影響（金融分野）

- ソニー生命が対面での営業活動を停止
 - 新規契約の獲得が減少
- 市場変動の損益に対する影響の可能性

26

2020年度セグメント別営業利益試算（金融分野を除く）

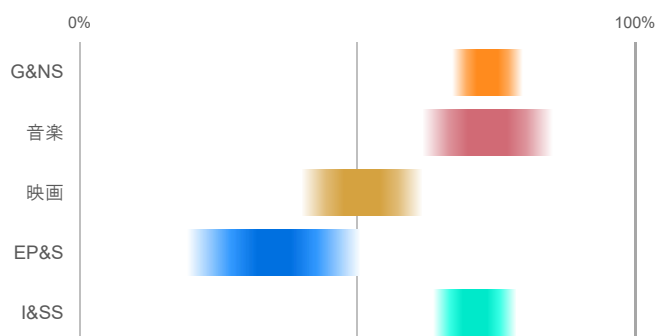
（2019年度実績を100%とした場合の2020年度営業利益の試算結果）

このチャートは、各セグメントの2020年度の営業利益を以下の前提に基づき試算した結果を、2019年度の営業利益実績に対する割合のレンジで示したものです。

前提条件

- 第1四半期中は新型コロナウイルス感染拡大が続き、ヒト/モノの移動が制限され、事業活動への制約が続く。
- 6月末に感染拡大はピークアウトし、第2四半期中にヒト/モノの移動制限が緩和され、事業活動も段階的に正常化に向かう。
- 第2四半期末には新型コロナウイルスの影響は、ほぼなくなり、第3四半期には事業活動は正常な姿に戻る。
- 為替の前提は1ドル=105円、1ユーロ=115円

2019年度営業利益実績を100%とした場合の2020年度営業利益の試算結果

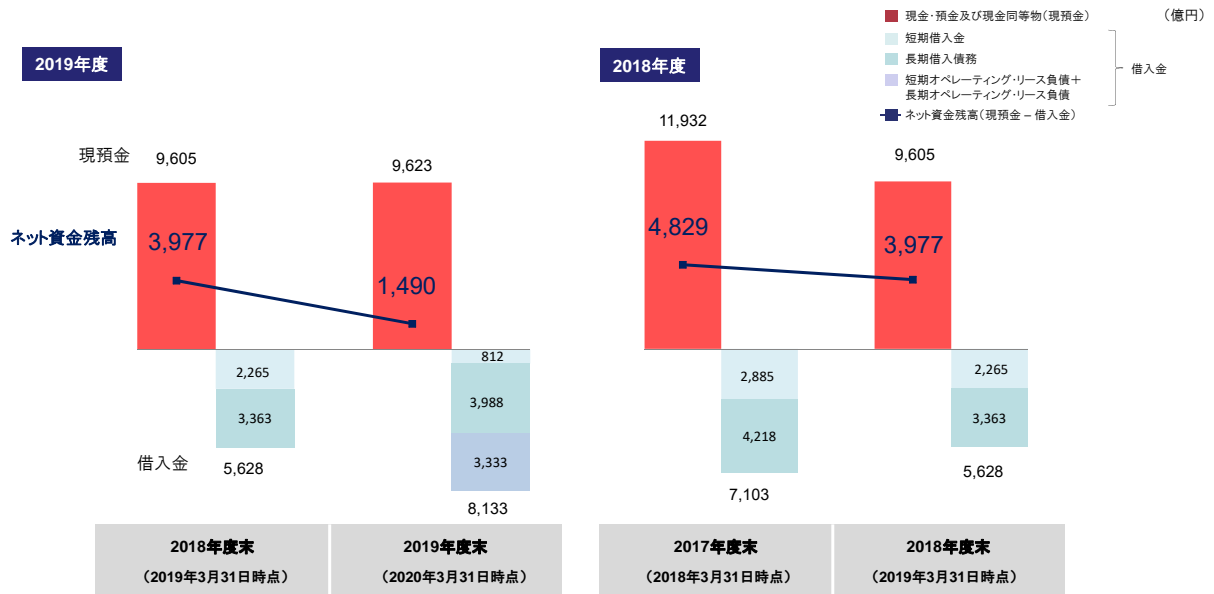


注記:

- 新型コロナウイルス感染拡大による各事業への影響の定性的な説明は、「2019年度 決算短信」の「【新型コロナウイルス感染拡大による事業への影響に関する現状認識】」をご参照下さい。
- 前提条件が変わる場合、営業利益の実績が、この試算結果の範囲から大きく乖離する可能性があります。
- 前提条件が変わらない場合でも、営業利益の実績がここで示している範囲に収まることを保証するものではありません。
- ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社(SFH)は、日本国内の新型コロナウイルス感染拡大の収束時期及び対面営業活動の再開時期についての予測が困難であることから、2020年度の業績見通しを未定としております。更に、当社としては、金融市況の大きな変動の継続がSFHの利益の増減に大きな影響を与える可能性があることも考慮し、他事業同様の試算値開示は困難であると判断しました。
- 上記試算は米国会計原則に則った開示ではありませんが、ソニーは、この開示が投資家の皆様には有益な情報を提供すると考えています。

27

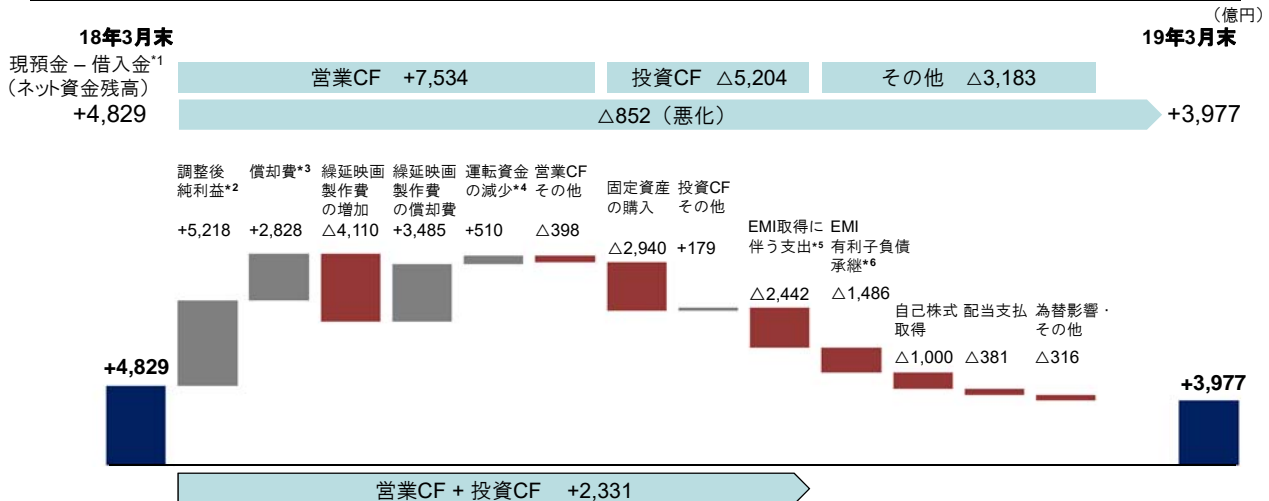
現預金・借入金残高（金融分野を除く連結ベース）



・「2019年度 決算短信JP.11 金融分野を除くソニー連結 要約貸借対照表及び「2018年度 決算短信JP.11 金融分野を除くソニー連結 要約貸借対照表 参照

28

2018年度 キャッシュ・フロー(CF)の分析（金融分野を除く連結ベース）



*1 P.28参照。

*2 「2019年度決算短信JP.13 金融分野を除くソニー連結 CF計算書 当期純利益(損失) + その他の営業損(益)(純額) + 有価証券及び投資有価証券に関する損益(純額) + 「2018年度決算短信JP.17 (米国のSony Americas Holding Inc.及びその連結納税グループにおける評価性引当金の取り崩し) 評価性引当金取り崩し額

*3 「2019年度決算短信JP.13 金融分野を除くソニー連結 CF計算書 有形固定資産の減価償却費及び無形固定資産の償却費

*4 同 P.13 金融分野を除くソニー連結 CF計算書 受取手形、売掛金及び契約資産の増加・減少 + 棚卸資産の増加・減少 + 支払手形及び買掛金の増加・減少

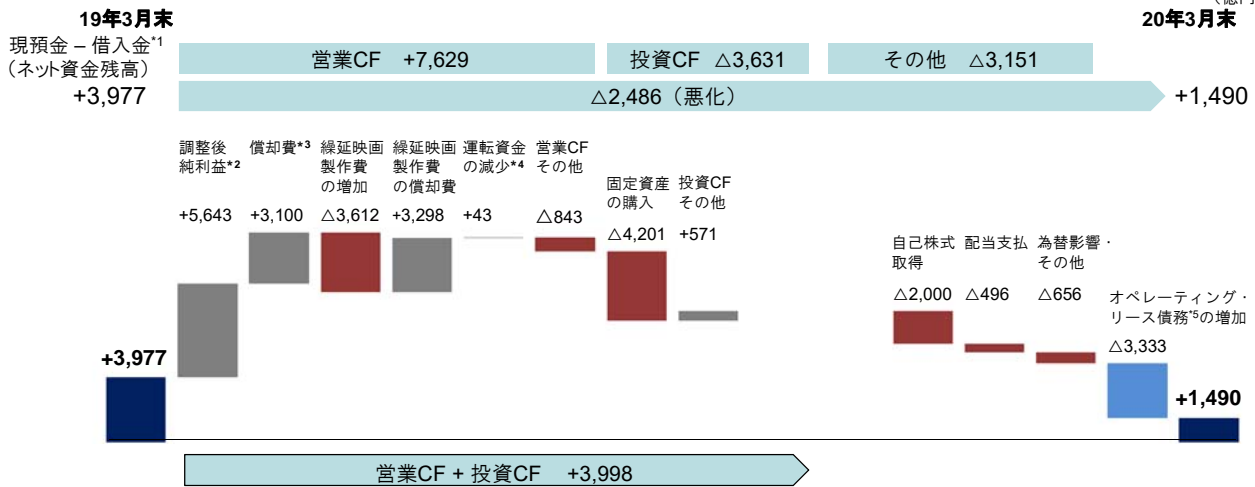
*5 同 P.6 連結 CF計算書 EMI Music Publishing取得に伴う支出(取得現金控除後)

*6 「2018年度決算短信」同 P.17 (EMI Music Publishingの取得)EMIの有利子負債承継額(うち、1,089億円返済済み)

29

2019年度 キャッシュ・フロー(CF)の分析 (金融分野を除く連結ベース)

(億円)



*1 P.28参照。

*2 「2019年度決算短信」P.13金融分野を除くソニー連結 CF計算書 当期純利益(損失) + その他の営業損(益)(純額) + 有価証券及び投資有価証券に関する損益(純額)

*3 同 P.13 金融分野を除くソニー連結 CF計算書 有形固定資産の減価償却費及び無形固定資産の償却費

*4 同 P.13 金融分野を除くソニー連結 CF計算書 受取手形、売掛金及び契約資産の増加・減少 + 棚卸資産の増加・減少 + 支払手形及び買掛金の増加・減少

*5 同 P.11 金融分野を除くソニー連結 要約貸借対照表 短期オペレーティング・リース負債 + 長期オペレーティング・リース負債

30

注記

前年同期の為替レートを適用した場合の売上高の状況、及び為替変動による影響額について

前年度または前年同期の為替レートを適用した場合の売上高の状況は、当年度または当四半期の現地通貨建て月別売上高に対し、前年度または前年同期の月次平均レートを適用して算出しています。音楽分野のSony Music Entertainment(以下「SME」)、Sony/ATV Music Publishing(以下「Sony/ATV」)及びEMI Music Publishing(以下「EMI」)については、米ドルベースで集計した上で、前年度または前年同期の月次平均米ドル円レートを適用した金額を算出しています。

映画分野の業績の状況は、米国を拠点とするSony Pictures Entertainment Inc.(以下「SPE」)が、全世界にある子会社の業績を米ドルベースで連結していることから、米ドルベースで記載しています。

為替変動による影響額は、売上高については前年度または前年同期と当年度または当四半期における平均為替レートの変動を主要な取引通貨建て売上高に適用して算出し、営業損益についてはこの売上高への為替変動による影響額から、同様の方法で算出した売上原価ならびに販売費及び一般管理費への為替変動による影響額を差し引いて算出しています。I&SS分野では独自に為替ヘッジ取引を実施しており、営業損益への為替変動による影響額に同取引の影響が含まれています。また、EP&S分野では前年度までモバイル・コミュニケーションにおいて独自に実施していた為替ヘッジ取引の影響が、営業損益への為替変動による影響額に含まれております。

これらの情報は米国会計原則に則って開示されるソニーの連結財務諸表を代替するものではありません。しかしながら、これらの開示は、投資家の皆様にソニーの営業概況をご理解いただくための有益な分析情報と考えています。

音楽分野、映画分野、金融分野の業績についての注記

2018年11月14日、ソニーは従来持分法適用会社であったEMIについて、ムバダラインベストメントカンパニーが主導するコンソーシアムが保有する約60%の持分全てを取得したことにより、EMIはソニーの完全子会社となりました。2018年度において音楽分野に含まれているEMIの業績は、2018年4月1日から11月13日までの期間は持分法による投資損益、2018年11月14日から2019年3月31日までの期間は売上高及び営業損益に含まれています。2019年度においては、2019年4月1日以降、音楽分野の売上高及び営業損益に含まれます。

音楽分野の業績には、全世界にある子会社の業績を米ドルベースで連結している、米国を拠点とするSME、Sony/ATV、及び前述のEMIの円換算後の業績、ならびに円ベースで決算を行っている日本の㈱ソニー・ミュージックエンタテインメントの業績が含まれています。

映画分野の業績は、全世界にある子会社の業績を米ドルベースで連結している、米国を拠点とするSPEの円換算後の業績です。ソニーはSPEの業績を米ドルで分析しているため、一部の記述については「米ドルベース」と特記してあります。

金融分野には、ソニーフィナンシャルホールディングス㈱(以下「SFH」)及びSFHの連結子会社であるソニー生命保険㈱(以下「ソニー生命」)、ソニー損害保険㈱、ソニー銀行㈱(以下「ソニー銀行」)等の業績が含まれています。金融分野に記載されているソニー生命の業績は、SFH及びソニー生命が日本の会計原則に則って個別に開示している業績とは異なります。

31

注記(続き)

2019年度 新型コロナウイルス感染拡大の営業利益への影響額の試算前提

2019年度 新型コロナウイルス感染拡大の営業利益への影響額の試算の前提は、以下の通りです。

- G&NS分野においては、2020年2月時点の当社内の計画数値見直し(2月想定)比でのソフトウェアダウンロードの売上総利益変動額に、新型コロナウイルス感染拡大に起因する2019年度と比較した費用の変動を合算した額を影響額としています。
- 音楽分野においては、音楽出版事業におけるパフォーマンスロイヤリティ収入(楽曲使用に関する著作権料)の2月想定比での減少額に2月想定における利益率を乗じた金額、及び、新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催されなかったイベントに関する2月想定利益見込額を集計合算し、イベントの中止・延期により減少した費用を控除した額を影響額としています。
- 映画分野においては、2月想定比での、制作・納入の遅延によるテレビ番組制作の売上減少に起因する利益の減少額、映画製作のデジタル販売等における利益増加額の50%相当額、及び公開を延期した映画作品に関する広告宣伝費用の2月想定からの減少額の合計を影響額としています。
- EP&S分野、及びI&SS各分野においては、各分野における売上高の2月想定と実績との差異のうち、新型コロナウイルス感染拡大の影響に起因すると考えられる変動額を可能な限り抽出したうえで、抽出した売上変動に伴う限界利益の増減額、及び、物流費、広告宣伝費等の費用の増減額を2月想定における対売上高比率等から算出することで、影響額を試算しています。
- 金融分野においては、第4四半期の市況悪化を新型コロナウイルス感染拡大の影響と捉え、2月想定比でのソニー銀行の投資有価証券評価損益の減少額、およびソニー生命における責任準備金繰入額の増加額などの市況による損益変動の合計を影響額としています。

32

将来に関する記述等についてのご注意

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭又は書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営陣の仮定、決定ならびに判断にもとづいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直して改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) ソニーが製品品質を維持し、その製品及びサービスについて顧客満足を維持できること
- (2) 激しい価格競争、継続的な新製品や新サービスの導入、急速な技術革新、ならびに主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい市場競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(イメージセンサー、ゲーム及びネットワークのプラットフォーム、スマートフォンならびにテレビを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力
- (3) ソニーがハードウェア、ソフトウェア及びコンテンツの融合戦略を成功させられること、新しい技術や配信プラットフォームを考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること
- (4) ソニーが他社との買収、合併、投資、資本的支出、構造改革その他戦略的施策の成否を含む(ただし必ずしもこれらに限定されない)ソニーの戦略及びその実行の効果を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(イメージセンサー、ゲーム及びネットワークのプラットフォーム、スマートフォンならびにテレビを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力
- (5) ソニーがハードウェア、ソフトウェア及びコンテンツの融合戦略を成功させられること、新しい技術や配信プラットフォームを考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること
- (6) ソニーが継続的に、大きな成長可能性を持つ製品、サービス、及び市場動向を見極め、研究開発に十分な資源を投入し、投資及び資本的支出の優先順位を正しくつけていき、技術開発や生産能力のために必要なものも含め、これらの投資及び資本的支出を回収することができること
- (7) ソニーの製品及びサービスに使用される部品、ソフトウェア、ネットワークサービス等の調達、ソニーの製品の製造、マーケティング及び販売、ならびにその他ソニーの各種事業活動における外部ビジネスパートナーへの依存
- (8) ソニーの事業領域を取り巻くグローバルな経済・政治情勢、特に消費動向
- (9) 国際金融市場における深刻かつ不安定な混乱状況や格付け低下の状況下においても、ソニーが事業運営及び流動性の必要条件を充足させられること
- (10) ソニーが、需要を予測し、適切な調達及び在庫管理ができること
- (11) 為替レート、特にソニーが極めて大きな売上や生産コストを計上し、又は資産・負債及び業績を表示する際に使用する米ドル、ユーロ又はその他の通貨と円との為替レート
- (12) ソニーが、高い能力を持った人材を採用、確保できるとともに、それらの人材と良好な関係を維持できること
- (13) ソニーが、知的財産の不正利用や窃取を防止し、知的財産に関するライセンス取得や更新を行い、第三者が保有する知的財産をソニーの製品やサービスが侵害しているという主張から防御できること
- (14) 金利の変動及び日本の株式市場における好ましくない状況や動向(市場の変動又はボラティリティを含む)が金融分野の収入及び営業利益に与える悪影響
- (15) 生命保険など金融商品における顧客需要の変化、及び金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否
- (16) 大規模な災害、感染症などに関するリスク
- (17) ソニーあるいは外部のサービスプロバイダやビジネスパートナーがサイバーセキュリティに関するリスク(ソニーのビジネス情報や従業員や顧客の個人を特定できる情報への不正アクセスや事業活動の混乱、財務上の損失の発生を含む)を予測・管理できること
- (18) 係争中又は将来発生しうる法的手続き又は行政手続きの結果

ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。新型コロナウイルス感染拡大は、上記のリスク及び不確実な要素の多くに悪影響を与える可能性があります。重要なリスク及び不確実な要素については、ソニーの最新の有価証券報告書又は米国証券取引委員会に提出された最新の年次報告書(Form 20-F)も合わせてご参照ください。

33